

第 4 号

○ 議事日程(第4号)

1 一般質問

2 議案第33号 よませ保育園改修工事(建築)請負契約の締結について

3 議案第34号 北信地域町村交通災害共済事務組合を組織する地方公共団体の数の増加
及

び北信地域町村交通災害共済事務組合同規約の全部変更について

4 議案第35号 平成26年度山ノ内町一般会計補正予算(第1号)

5 議案第36号 山ノ内町非常勤消防団員に係る退職報償金の支給に関する条例の一部を
改

正する条例の制定について

○ 本日の会議に付した事件……議事日程に同じ

○ 出席議員次のおり(16名)

1番	小根澤 弘 君	9番	黒岩 浩一 君
2番	望月 貞明 君	10番	徳竹 栄子 君
3番	西 宗亮 君	11番	湯本市 蔵 君
4番	田中 篤 君	12番	小淵 茂昭 君
5番	布施谷 裕泉 君	13番	山本 一二三 君
6番	高山 祐一 君	14番	小林 克彦 君
7番	高田 佳久 君	15番	渡辺 正男 君
8番	山本 良一 君	16番	児玉 信治 君

○ 欠席議員次のおり(なし)

○ 職務のため議場に出席した議会事務局職員の職氏名次のおり

議会事務局長 河野 雅男 議事係長 常田 和男

○ 説明のため議場に出席した者の職氏名次のおり

町 長 竹節 義孝 君 副町長 小林 央 君
教育委員長 村上 温 君 教育長 佐々木 正明 君
会計管理者 花岡 佳昭 君 総務課長 内田 茂実 君

税務課長	大井良元君	健康福祉課長	成澤満君
農林課長	生玉一克君	観光商工課長	藤澤光男君
建設水道課長	渡辺千春君	教育次長	柴草隆君
消防課長	阿部好徳君		

(開 議)

(午前10時00分)

議長(児玉信治君) おはようございます。本日はご苦労さまです。

ただいまの出席議員数は16名です。したがって、会議の定足数に達しておりますので、本日の会議は成立しました。

これより本日の会議を開きます。

1 一般質問

議長(児玉信治君) 本日は日程に従い、11番から12番までの一般質問と議案の審議を行います。

一般質問を続行します。

質問通告書の順序に従い、質問を許します。

10番 徳竹栄子君の質問を認めます。

10番 徳竹栄子君、登壇。

(10番 徳竹栄子君登壇)

10番(徳竹栄子君) 10番 徳竹栄子。

過日、日本創生会議が発表した資料によりますと、当町は県下でも4番目の消滅のおそれが高い比率であると報道されました。また、全国的に見ても、かなり比率の上位に位置することが、大変憂慮する問題であると考えます。

全国的に起きている社会現象の大きな流れはとまらないかもしれませんが、当町に何ができるのか、現状と比べながら検証し、今後の施策のヒントを得るため、全国の長野県の消滅するおそれのある自治体とそうでない自治体の違いなどを調べて対策や取り組みを生かしていけばと考え、質問いたします。

また、今回の発表された資料は、単に若い女性が減少する比率が高いということだけでなく、若い男性も含め、総人口が1万人を切り、6,919人となる予想から、当町の第5次総合計画の施策の計画の基準となっている1万3,000人前後の人口予測の数字に開きが生じる可能性があることから、見直しや新たな計画の策定、そして町の今後のあり方の検討の必要についても考えをお聞きしたいと思います。

今回の質問は、大変難しく、苦慮いたしました。

それでは、通告に従い、質問いたします。

1、少子化問題・若者定住策・町の将来像について。

(1) 平成26年5月8日に日本創生会議より発表があった2040年の市町村別人口の試算において当町は、20代から30代女性の減少変化率が県下で4番目と高く、消滅する可能性が高いと示されたことについてどのように受けとめているか。

(2) 町長は、新聞報道でさまざまな施策をしているが、効果があらわれていないというコメントを発表されているが、効果があらわれない施策やその原因についてどのように考えているか。

(3) 今後関連する施策の進め方や町のあるべき姿についてどのように考えていくか。

再質問は質問席にて行います。

議長（児玉信治君） 答弁を求めます。

竹節町長、登壇。

(町長 竹節義孝君登壇)

町長（竹節義孝君） 改めておはようございます。

徳竹栄子議員のご質問にお答えいたします。

まず1番目の少子化問題・若者定住策・町の将来像について3点のご質問をいただいております。

(1)の日本創生会議発表の受けとめと(3)の今後の施策の推進につきましては、総務課長からご答弁申し上げます。

(2)につきましては、第5次総合計画のまちづくり重点アクションプランに定めた産業活性化アクションプラン、若者定住アクションプラン、まちづくりアクションプランの3つの柱を実現するため、ご承知のとおりさまざまな方策を展開しているところでございます。

なお、1万3,000人というのは、平成32年の数値でございますので、そういう意味では、創生会議の年度とはかなり年数に開きがございます。

なお、取材は電話で30分程度いただきました。

新聞やテレビでも、取材時間の割に内容もピンポイントの報道になりますが、第5次総合計画や若者定住アクションプランの概要等を説明申し上げます。

人口減、少子化、若者定住策等、喜ばれているものの、必ずしも成果が出ていない現状は他市町村も同様であり、特効薬というか、クリーンヒット策が見当たらないので苦慮しているところでございます。

しかしながら、町といたしましても、だからどうのということではなくして、だからこそみんなが一緒になってこうしたいろいろな施策を積極的に推進し、人口減に歯どめをかけていきたいな、これが行政の責務だと思っております。

以上でございます。

議長（児玉信治君） 総務課長。

総務課長（内田茂実君） 1番、少子化問題・若者定住・町の将来像について、(1)番でございます。

平成26年5月8日に日本創生会議より発表された2040年の市町村別人口の試算において、当町は20から30代女性の減少変化率は県下4番目と高く、消滅する可能性が高いということのご質問でございますが、どのように受けとめられているかというご質問でございますが、昨年3月に公表された国立社会保障人口問題研究所の地域別将来推計人口によりますと、2040年の当町の人口が8,000人を割り込むという予測と同時に、今回の試算についても、衝撃的なものというふうに感じております。

これらの予測を打ち消すために、町が元気になることが重要で、都市部への住民の流れを変えなければなりません。現在取り組んでいる移住、定住促進策、子育て支援策、農業を中心とした就業支援策など、事業を停滞させないことがポイントになるかと考えております。

さらに、人口対策として今後考えていかなければならない点については、出生率を上げていかなければならないこと、またそれから、結婚とか出産の問題、それから、多子世帯の負担軽減などについて、多角的な事業展開をしていく必要を強く感じているところでございます。

次に、(3)番、今後関連する施策の進め方や町のあるべき姿についてどのように考えていくかというふうなご質問でございますが、先ほど申し上げましたところと重なるところもございますが、現行行っている施策をさらに推進していくとともに、都市部への住民の流れを変えるために、住みたくなる、暮らしたくなる魅力あるまちづくりの施策を今後打ち出していく必要があるということが重要と考えております。

以上でございます。

議長（児玉信治君） 10番 徳竹栄子君。

10番（徳竹栄子君） それでは、質問に入りますが、質問に入る前に、今回の質問に当たりますのは、先ほどの日本創生会議の資料、それから当町の年齢別人口集計表、それから北信地域定住自立圏構想、それから第5次山ノ内総合計画値に基づいてお聞きいたします。

先ほど私の質問書に対して町長がいろいろと答弁をさせていただきありがとうございます。それで、最初にお聞きしたいんですけども、この創生会議の発表した資料を、当町の今の現状と比べて、本当にこうなるのだろうか、この数字は妥当なのか、そういったことを調べてみようという考えはお持ちになりましたでしょうか。

議長（児玉信治君） 総務課長。

総務課長（内田茂実君） お答えいたします。

先ほどの国立社会保障人口問題研究所のときも、実際は2010年の国勢調査をベースにいたしまして、2040年のものを推計をいたしました、その中で今の2040年のこの社会問題研究所のところでいきますと、20代、30代の女性が、2010年の数でいくと1,104名、それで2040年のときは476名ということで、この時点でもう56.9%の減。さらに、今回の日本創生会議の指標でいきますと、それをもっと上回る317人まで減少して71.3%という形でございます。

それで、先ほど徳竹議員さんからもありましたとおり、どのような状況で今推移をしているかというところを、多少調べさせていただいているところでございます。

以上でございます。

議長（児玉信治君） 10番 徳竹栄子君。

10番（徳竹栄子君） 私もこの推移を調べました。この創生会議の座長さんは、これをもとに地域、それから自治体が個々に施策を検討していくための必要な資料で、具体的な議論のベースになってもらいたいという思いで発表したわけですので、批判するのではなく、真摯に受けとめていただきたいと思います。

それで、今、総務課長に聞きましたところ、いろいろ検証したようでございます。それでは、私なりの数字を申し上げます。

過去4年間で見ると、2010年、2014年の比較です。20から39歳の女性は自然減が10人、流出が8人で合計18人の減少、1年間に自然減は平均すると2.5人、流出2名です。同年代の男性は、自然増が81人、流出23人で58人の増という結果です。これは、今までの施策が少し効果があるんじゃないかと私は思っております。

しかし、これから2040年を推測しますと、日本人の人口だけで申しますと、2014年3月31日現在、課長が言いました20から39歳の女性は約1,090人です。2040年まで、今後26年間、流出しないと考えた場合、現在のゼロ歳から13歳が26歳から39歳になる計算で、この数は567人です。この数字に26年後の二十歳から25の女性、つまり、6年間生まれてくる子供、過去平均、女性だけで31.6です。6年間ですと180人前後です。合計すると、課長が言った747人と同じです。少子化による自然減は、先ほど1,090人から743人で自然減は343人です。そこへ、先ほど言った747人が、この創生会議の資料によりますと、317人という数字です。要するに流出人数が430人になるということになるわけですね。747人から430人減少してしまうようにならないように、いろいろと施策をしているわけですが、町長、このような状況についてどのようにお考えでしょうか。

議長（児玉信治君） 竹節町長。

町長（竹節義孝君） 大変憂慮していると同時に、やっぱりそういうときこそ行政が真剣になってやっていかなきゃならない。それはここに住んでいられる条件をつくるというのは、やはり観光や農業、うちの場合には、基幹産業を充実して働く場所があること、それから、それに伴っての福祉や教育の充実、それから安心・安全なまちづくりということで、総合的にそういうことをきちっとやっていかなきゃならないし、またやっていく必要があるなと思っております。

ただ、心配な部分はたくさんございますけれども、心配だけでいくんではなくてして、今まで財政計画に基づきながらいろいろやってきました。例えば数年前に町の財政が非常に厳しいと、県下ワースト1だというときも、イエローゾーンが25%以上、そのときうちの町は19%で県下ワースト1ということになったときに、今現在15%前後で推移しておりますけれども、皆さん大丈夫か大丈夫かということ盛んにあの当時言われました。

しかし、みんなの頑張ってきたことによって、そういったこともきちっと克服できておりますので、またこれからも、少子高齢化というのは、日本全体が今かぶっている大切な課題でございますので、我が町はそういう意味では、これからも積極的にそういったことを中心に対応していきたいなと思っております。

また、いろいろなアイデア、知恵、それを協力していただくように、ぜひよろしくお願ひしたいと思っております。

以上です。

議長（児玉信治君） 10番 徳竹栄子君。

10番（徳竹栄子君） 子供の数をふやす施策はもちろんながら、若い女性が流出する原因、これをきちっと把握するというところでございます。

そういうことが重要ではないか。優先的に女性の雇用の確保、女性に住みやすい地域、子育てしやすい環境、女性に対する優しい理解、そういったものが重要ではないかと思えます。

それでは、なぜ当町がこの減少率が高いと推測された、そういった観点からお聞きいたします。

それには、やっぱり流出する原因がたくさんあるということだと思うんですね、流出する可能性が高いと言われるというのは。それについて、ちょっと全国の減少率の低い地域と高い地域の違いについてちょっと考えていただきます。

減少率の低い市町村の条件は、大まかに見た場合、大都市や中核都市であり、雇用の環境が整っている。大都市や中核都市の周辺にいて、中心都市では補えない条件のよい子育てや定住条件がある。いわゆるベッドタウン。

3つ目、核となる大手企業がある。鳥取の日吉津村は王子製紙、石川県川北町は金沢市に20%が通勤で松下電器の会社があります。熊本県大津町は本田技研などです。

4、大手企業はないけれど、企業団地の提供や固定資産税補助など条件を整備して多くの企業誘致に力を入れている南箕輪町、小・中・高・大学がそろっている教育環境整備があること。早くから危機感を持って少子化・定住策に力を注いでいる下條村、こういったことが言えます。

逆に減少率の高い地域を見ると、次のようなことが言えます。減少率の低い地域の条件の逆の要素、公設のハンディ、温泉、スキー場などの観光を主とした市町村、蔵王町、白馬、野沢、群馬県の草津、新潟県の湯沢、そして当町、山ノ内町。そして、近くに中心都市があっても、規模が小さく周辺の地域がベッドタウンとならず、逆に吸収されている。

5、雇用や財政が豊かでも、居住環境の悪さで人口が減少する。少し補足しますが、愛知県の飛島村は2010年の財政力指数は2.55で、第2位の1.69の自治体に大差をつけて断トツ1位の全国一番の村です。ちなみに、2010年の当町は県下で25番目、0.52でした。いかに財政豊かな町か想像できると思えます。

しかし、一方、お金があふれていてもちっとも人口がふえない村なので、合併が各地で進められたときに、村は他の市町村と合併すれば、住民サービスが減ってしまうということで、70%の住民が反対をした村です。しかし、今回の資料でこの飛島村は、減少率がマイナス54%で、少ない愛知県の消滅のおそれのある自治体に入る結果となってしまいました。私はこれを見たとき、当町も飛島村のようにならないかと少し危惧しました。

以上説明が長くなりましたが、申し上げたように、条件が消滅しそうな自治体と、ない自治体のパーセンテージの差となっていると思えます。

今申し上げたことについて、町長は当町の現状と照らし合わせて、当町の減少が高い理由について、もう少し具体的にお聞かせください。

議長（児玉信治君） 竹節町長。

町長（竹節義孝君） 先ほども触れましたように、やっぱり一番は観光、農業が思うように進んでいない。しかし、例えば去年はちょっと少なかったですけども、その前までは、3年ほど、山ノ内町の新規就労者が2桁、飯山、中野を抜いて、この北信6市町村で断トツで2桁になっていました。要するにいろいろな施策を講じる、働く場所があるということが極めて重要だなど。町の場合には、工場誘致ということもなかなかいきませんので、やっぱりここは観光と農業をいかにして活性化させるかという、確かにバブルのころ、あるいはスキー産業が非常に右肩上がりのころは、ホテルをどんどんつくって、その規模もペンション、ヒュッテから修学旅行対応の大きいホテルにしていくということで、かなり大きくなって、そのことによって非常に多くのお客さんが見えていただいたことも事実です。

しかし、今のように観光産業が非常に低迷してくると、そのことが逆に重しになっている、そんな中で、例えば都市計画税を思い切って全廃するとか、あるいは18歳までの医療費を無料化にするとか、いろいろなことをしてきておるところでございますけれども、そんないろいろな施策がそれぞれがうまくリンクし、結びついていくことによって、人口減の歯どめをかけたり、あるいは産業振興に結びついていけば一番いいなと思っております。

これからも関係する皆さんといろいろ知恵を絞りながら協力して対応していきたい。やっぱりあれもだめ、これもだめじゃなくて、そういうときこそ、知恵や力、それから財源を有効に活用して、町が頑張れる、そんな努力をしていくことが行政としての責務であり、議会や住民の皆さんと一緒にそれをやっていかなきゃだめだと、余り将来を悲観することもないんじゃないかなと思っております。

例えば東北のほうへいけば、人口数百人で頑張っている村、南信のほうへ行っても、同じように数百人で頑張っている村があるわけでございますけれども、そういったところは、ほとんど農業ぐらいと、あと近場へ働きに行くという、そういう中でも、村を存続させて頑張っているわけでございますので、山ノ内町はそういうのに比べると、ずっとまだまだ恵まれているという条件があると思いますので、これをいかにして浮揚に結びつけていくかというのが、行政と住民、議会の皆さんの知恵、それから力の出し合いがと思いますので、ぜひまた積極的にご提言いただければありがたいと思います。

以上です。

議長（児玉信治君） 10番 徳竹栄子君。

10番（徳竹栄子君） それでは、人口の移動のパターン、東京は全国から転入がありますが、こういうほかの地域は、東京以外は、県内移動のパターンが多く見られるそうです。村から町、町から市へ、そういった移動が多く見られる。

そこで、当町の場合を見ていきたいと私は思います。2つの現状をお示ししながらお聞きしたいと思います。

まず1つなんですけれども、現在、当町は中野市と飯山市、北信地域定住自立圏構想の協定を結んでおります。この小さな市町村がいろいろ助け合いながら、北信地域からよその都市へ

流出しないための協定を行っているわけですけれども、この中心都市宣言した中野市の資料を見ますと、山ノ内に常住する就業、就学数は5,825人、そのうち27%の1,588人が中野市、160人が飯山市へ通勤しております。このうち、就学については、16歳から18歳は約400人おります。実際に仕事に行っているのは1,200人、この1,200人の方は、近隣都市、医療の充実、警察、高校、商業施設などが整っている、当町と同等の移住環境があれば、移り住む可能性が大きい、高いというふうを考えられます。

そこで、当町が先ほどいろいろ施策をし、観光、農業を活性化して一生懸命自立を宣言している当町において、他の近隣の市町村より高度な子育て支援、それから教育環境整備、安価で住宅環境のよい住宅用地の提供などが今までできていたかどうかであります。

私は、ちょっと細かい施策についてお聞きします。12月議会に3人子供が産まれたら全ての3人を無料にしてほしいということをお願いしました。スライド式ではなくて。そして、23年12月議会は、住宅支援については、結婚3年以内では、なかなか新築、改築はできないのではないか、見直してほしいというようなことも申し上げました。こういった施策を改善していただきたいというのが、今後の定住につながるのではないかと思います。

ちなみに、3人子供が条件なしで無料の飯山市は、全て3、4は保育料が無料となっております。

やはり、他の近隣市町村よりも有利な支援をしていかないと、どうしても流出してしまうのではないかと思いますので、その辺についてお願いします。

議長（児玉信治君） 竹節町長。

町長（竹節義孝君） 常にやっぱり少子化対策ということで、そういうことを総合的に判断しながら、いろいろな皆様のご意見をお聞きして町は対応しているつもりでございますし、非常に県下でも先駆けて18歳の医療費の無料化というのは、なかなかまだこの地域の中では、よそのほうでは進んでいかない、そういった特質的なものうちのほうではございますけれども、それだけで子供がたくさんふえたり、人口がたくさんふえるかということ、なかなかそういうことだけでは、あれをやったから大丈夫、これをやったから大丈夫ということだけというのは、先ほども申し上げておりますように、特効薬というかそういうのはなかなかないという状況でございますので、総合的にまちづくりをやっていくことによって、そのことをクリアしていきたいなと思っております。決して徳竹議員のことを、ミクロのことで否定しているわけではございませんので、マクロ的に見て、総合的にこれからも対応してまいりたいと思っておりますので、ご理解いただきたいと思っております。

以上です。

議長（児玉信治君） 10番 徳竹栄子君。

10番（徳竹栄子君） 総合的に、もちろんそれはしなければいけないんですけれども、現実には、近隣市町村で、やはり我が町よりもそういう施策が劣っていれば、これは流出するというのは当たり前なことではないかなと思っておりますので、この3人無料については、ぜひ検討していただ

きたいことを申させていただきます。

次に、町内の雇用の場が、観光、農業だけではまだまだ足りない状況、先ほども1,200人の方が近隣市町村に通勤していると。中心都市に働きに行き、住んでもらうのは我が町というような施策をしていく。これは今の施策に対しても効果を上げつつ頑張っていますので、ぜひ改善していただければ、もっとそういう効果が出てくるのではないかと思うわけですが、この間の地元新聞に、宅建協会と連携して、定住促進として空き家バンク事業に取り組んだ、これは大変評価したいと思います。

そこで、もう少し踏みこんで新しい若者定住策として、不動産屋さんが持っている新築できるような土地を不動産事業者と連携して、初回の、新築の建物に対しての固定資産税の軽減とか、下水道もつなぐ補助など付加価値をつけて、若者の流出を防ぐ、そしてまた他の地域から流入してもらうような思い切った施策はいかがかと思うんですが、町長はどのように思いますか。

議長（児玉信治君） 竹節町長。

町長（竹節義孝君） 確かに若い皆さんの住むところをきちっと確保していったり、今、新しい施策として、ことしは新規でよそから移住、定住してきた場合の建物住宅補助だとか、改修補助、家賃補助、こういったことも町で始めたわけでございますけれども、今までの過去の経過を思い起こしていただければ、例えば若者定住のアパートをここの近隣市町村で幾つもつくりました。格安の値段で新しい新居をつくって、そうしたら、結局最初のうちは皆さん喜んで入っていただいたように、一定の年数がございまして、それを過ぎたらもう空き家になってしましまして、役場の職員に無理に入っていただくので、これは余りお勧めじゃないよということをおっしゃっていただき、また、やっぱり町が真剣になってやろうということで、塚田ビレッジを造成して、2匹目のドジョウを狙いながら、次に何か所か候補をやっていたんですけれども、そのころ土地の取得価格と、それから販売価格がもうバブルがはじけたことによって、大幅に引き下がってきて、その当時の土地の価格がございまして、民間業者も今はもう手を出す時期じゃないよというふうに私どもアドバイスされてきました。

そのときそのときに、やっぱりやって功を奏すること、それから、それがあから直ちに求めていただけるかというのは、例えばことし補正予算で空き店舗対策で2件補正させていただきましたけれども、やっぱりちょうどタイミングよくそういうのが出てくるとそういうところにやりますけれども、ただそれだけで、じゃ山ノ内町へ来て商売やろうか山ノ内町に来て住んでみようかということに必ずしもならない。

例えば18歳の医療費の無料化をやっていると、皆さんはいいねと言うけれども、じゃ山ノ内へ住んでみようかということにならない。やっぱり総合的にいろいろなことが条件をクリアされないといけないのだなと。その一番基本は働く場所なのかなと思っておりますので、これからも町の観光や農業の基幹産業を重点に置きながら、福祉や教育、そういったものにできるだけ配慮して対応していきたいなと思っておりますし、それにはやはり昔から衣食住ということで

ございますので、そういった中では、人間が住む中には最低限のものが需要だと思いますので、これからもいろいろな施策を、他のことを参考にしながら、町の中での施策を講じてまいりたいと思っております。

以上です。

議長（児玉信治君） 10番 徳竹栄子君。

10番（徳竹栄子君） 町はリスクを負わないようにするためにも、不動産会社と提携するのが一番リスクがかからないと思います。

それで、空き地や土地の不動産物件の情報とともに、若者重点アクションプランや子育て支援の施策を共有して情報発信するような取り組みについては、どのように考えますか。

議長（児玉信治君） 総務課長。

総務課長（内田茂実君） 今の空き家の関係等についても、宅建協会との提携を結ばせていただきまして、空き家の情報についてはホームページ等で載っているんですけども、まだ現在のところ5件というふうな形で、少ない状況であります。

宅建協会の長野支部のほうと先日も話をさせていただいたときに、宅建協会でお持ちの情報等も町のほうに提供いただいて、ホームページ等で流していきたいかなというふうに考えております。

また、先ほどもありましたけれども、若者のほうの家賃補助の関係、ちょっと今、質問がちょっとあれですけども、その関係も、今までは40歳までの3年までをめぐるところを、年齢を取っ払いまして、町外からいらっしゃる方については、50歳まで家賃のほうを補助したいというふうな形の中で、そういった形で少し方向を転換しながら、若者の皆さんが町のほうに定住していただく、土地の関係、あるいは建物の関係も含めて関係機関と連携をとりながら、町だけではやっぱり難しいという部分がございます。連携をとりながら事業を推進してまいりたいというふうに考えています。

以上でございます。

議長（児玉信治君） 10番 徳竹栄子君。

10番（徳竹栄子君） 次に、第5次総合計画のまちづくり5つの柱の中で、目標4に、自然と快適な暮らしをつなげる生活基盤づくりとして、施策の視点の中に、誰でもが暮らしたくなる魅力あるまちをつくと称しております。町長、誰もが暮らしたくなる当町の魅力、個性、近隣市町村、拠点都市に負けないものはどんなものがあるでしょうか。

議長（児玉信治君） 竹節町長。

町長（竹節義孝君） 自然とか温泉とかおいしい果物とか、いろいろございます。

そういった意味で、そういったことをできるだけ皆さんにPRしながら、そしてこの町に住んでいただけるように、今回補正予算でお願いしておりますけれども、長野県を中心にした3県での東京での移住・定住の説明会にも、町は初めて今回参加しながら、やっぱりなかなか情報発信していかないと皆さん知らないケースが多いと思いますので、山ノ内町のよさを大いに

PRしながら、こちらの町へ住んでいただく。

旅行に行ったときに温泉、お年を召すとやっぱり温泉というのはいいだろうと思いますし、自然、こういったものが非常に喜ばれると思いますので、そういう意味では、この間も皆さんお見えになって、空気がきれい、さわやかだと、この暑い中で、そして温泉があつていいところだねというふうに多くの方におっしゃっていただきました。これをまたできれば移住・定住にも活用していきたいなというふうに思っております。

議長（児玉信治君） 10番 徳竹栄子君。

10番（徳竹栄子君） 私もその内容ですけれども、もうちょっとあるので聞いてください。皆さんも考えていただければと思います。

もちろん温泉がそこらじゅうにある。温泉つき住宅が一部可能、地域には大湯がたくさんある。2番目、清流の美味しいお水が水道水になっている。そして、あちこちに小川がたくさん流れている場所がある。3、土地が安く、広い土地が確保できる。住宅に空間がとれる。自家菜園、庭のスペース、川の水を取り入れた池のスペースなどがある。4、スキー場のサービスが一部無料で受けられる。5、山々が近く、森林のパワーやセラピーが強く受けられる。6、排気ガスがなく、きれいな空気と寒暖の差により、おいしい果樹、野菜、そば、お米が新鮮な状態で手に入る。7、除雪整備はすばらしい。8、先ほど町長が言ったすがすがしい。きのう長野のお客様が言っておりました。夜、蒸し暑く眠れないことがたくさんある。こういった我が町の、都会にない当町の個性を大いに情報発信していただいて、移住・定住の取り組みにしていきたいとお願いいたします。

それについては、今度、移住・定住の東京に行く予定になっておりますが、それの方に感想を聞かせていただきたいんですが。副町長ですか。

議長（児玉信治君） 小林副町長。

副町長（小林 央君） 公式に行く予定はないんでありまして、自主的に行くというか、参加させていただくということでございます。

確かに実際に、移住・定住のセンターをごらんになっていただければ、何回も言いますが、日本中の市町村があそこに来て、もう何百というファイリングボックスを持って、我が町に来てくださいということをお願いしているわけでございまして、その中から我が町を選んでいただくということの大変さ、これは相当考えなければ、そう簡単にはうちの町には来ていただけないというのはわかると思います。

それから、実際に移住ということになりますと、あそこでいろいろな市町村がセミナーを開いたり、お客様に説明しているわけですが、行ってみようかなという人たちにとっては、自分の住居を変えるわけですよ、この判断、決断というのは、相当なものがあるわけです。

今、うちの町のいいところは、いろいろございます。ところが、そういう方々にとって悪いところもいっぱいあるんですね。こんなに雪の降るところに、まず冬寒い、これだけでも皆様

がそこまで行くかな、それからせいぜい行っても佐久ですね、私なんか見れば、佐久なんかとても寒くて住むところじゃないなんて思いますけれども、それでもせいぜい佐久まで行って、あそこも温泉が結構出るんですね。そうすると今、軽井沢には住めないけれども、佐久ぐら이었다ら住めるよということで、軽井沢も近いということで、佐久の辺は非常に人気がございます。

そういった点では、うちはいろいろいいところもたくさんございますけれども、難しいところもたくさんある、その中で施策を考えていかなければいけないなど、両方あると思います。

それから、今、いろいろな施策を打っておりますが、きのうも議員さんからいろいろおっしゃっていただいておりますが、もう少し地道に今の現状を分析して、どういった点をもうちょっと力を入れていけばよくなるのか、それからこういった施策は要らないのか、その点ももう少し分析させていただいて政策を進めていきたいという気持ちでございます。

議長（児玉信治君） 10番 徳竹栄子君。

10番（徳竹栄子君） ぜひ山ノ内の、ハンディもありますけれども、よいところはたくさんあるので、情報発信をしていただきたいと思います。

それと、2つ目の当町の現状について、これは第5次総合計画の資料でございます。

第1次産業2,051人、第2次産業1,466人、第3次産業4,879人です。この構成を見ますと、第2次産業の従事者は中野に、先ほど言ったようにお仕事に行っておりますので、少し流出する可能性がある。ところが2番目の第1次産業については、農業従事者においては今の農業の施策をきちっと、もっとたくさんやっていただければ収入の確保はできて継続できるので、余り流出する可能性は少ないと思います。

しかし、一番深刻なのは、第3次の4,879人の方々の産業の割合が、就労している割合が多いわけですが、先ほども言ったように、消滅度の高い自治体は、冬の観光地が多いとお示しました。こういったところでちょっと心配なんです、現に私たちの地域の竜王地区は、既に10人の家族がいなくなって、約40人が転出しちゃいました。あの小さなエリアでさえですね。

だから、まだ大丈夫だろうという気持ちは分かりますけれども、本当に真剣に考えていく必要があるんじゃないかな。当町は観光のまちでもあるので、今以上に真剣に考えていただきたいなと思います。

それで、観光産業でそこらじゅうに空き家旅館が出ている、景観が悪いとそのそばのいろいろな飲食店とかそういったものが影響してしまいます。これは、国や県の対策を考えて取り入れなければ対応できませんけれども、こういった問題については、町長、どのようにお考えでしょうか。

議長（児玉信治君） 竹節町長。

町長（竹節義孝君） 前に、町長に就任して間もなくのときですけれども、国立公園の中の廃屋の撤去について、ぜひ国・県の支援をしていただけないかということで、県の環境支援課、税務課、地方課、各課を待って歩いてまいりました。たまたまなんですけれども、この間も6月

1日に小坂参議院議員がお見えになったし、それから阿部知事さんがちょうどお見えになっておりましたので、ちょうどあの会場の付近にホテルが2軒やっていないところがございますので、そこを現場を見ていただきまして、こういう状況にある、価格はこの程度なのだけれども、地主との絡みもいろいろあってなかなか売買できない、そういう状況で、全ての廃屋ホテルを対象ということでは国も県も大変でしょう。せめて国立公園の中だけでもやっていただけないかということで要望を申し上げまして、話としてはそういうことを申し上げましたけれども、小坂先生、あるいは阿部知事さんも、深刻な状況はわかったと。ちょっとまたいろいろどうなるかは別として、真剣に検討してみたいということで、ちょうど1日の日、幸いというふうに言うとはよくないんですけども、たまたまそういう場所でそういうことがあったということがありましたので、その機会をとらえて、そんなこともさせていただきまして、何とか理由は国立公園じゃないからだめだよというふうにおっしゃられるかもしれませんが、皆さん関心を示していただいたのは、確かに国立公園というそういうことでいけば真剣に考えなきゃいけないということだけはお感じいただけましたので、これからもそのような形を含めて何とか対応していきたいなというふうに思っております。特に山ノ内町は景観条例をつくっておりますので、そんな観点でも必要なことだというふうに思います。

以上です。

議長（児玉信治君） 10番 徳竹栄子君。

10番（徳竹栄子君） それでは、子供の教育環境、これはやはり定住や子供の環境がよい、やはり定住、移住していただけるということなんでございますけれども、教育長の今進めていますよね、適正規模で。今、審議会がやっておるんですけども、こういったものを早く1年間かけて今後やっていくわけなんですけれども、人口増対策と並行して、やはり教育環境は早目にやっていたかかないと流出になる原因にもなるんじゃないかと思うんですが、その辺について教育長の答弁をお願いします。

議長（児玉信治君） 佐々木教育長。

教育長（佐々木正明君） 議員さんご指摘のとおり、教育環境というものを整えようということで、審議会等も立ち上げさせていただきまして検討しているところでございます。

私、昔、山の中の小さな学校におりました。そのときに、私は非常に景色もいいし、人もいいし、雪も多くて寒いんですが、とってもいいところだった。そこの働いているおじいさんに、いいところですねと言いましたら、そのおじいさんが、いや、おらは何しろ下を向いて畑を耕しているばかりだと。おめえさんみたいに上を向いて歩けねえと、おめえさんは大体二、三年すればどこか行っちゃうじゃないか、おらみたいなずっと暮らしていかなきゃいけない者はどうするだいなってちょっと皮肉を言われたんですね。

私は、やはりそういう地域のさまざまなすばらしいところをこれをもっともってその地域の方々、村民自身をもっと誇りを持ってそれを育てていく、そういう育ててまた宣伝していくところが私は大事ではないかなということを思うんです。

学校につきましても、やはり、一貫した山ノ内の教育を誰でも特色のある地域の中で学んでいくということが大事かと思えます。

そんなようなことで頑張っていきますので、またご支援をお願いしたいと思います。

議長（児玉信治君） 10番 徳竹栄子君。

10番（徳竹栄子君） 当町の出生数は、2010年68人、11年75人、12年93人、13年75人、14年70人、平均76.2なんですね。これはもういろいろ施策をしなければだんだんと少なくなってくるということなので、本当に学年が2クラスできるかどうかになってくるような状況なので、本当に教育環境を早く確立していただきたいということで、お願いいたします。

以上で私の質問を終わります。

議長（児玉信治君） 制限時間となりましたので、10番 徳竹栄子君の質問を終わります。

議長（児玉信治君） 4番 田中篤君の質問を認めます。

4番 田中篤君、登壇。

（4番 田中 篤君登壇）

4番（田中 篤君） 4番、緑水会の田中でございます。

本議会一般質問の最後を承りました。皆様お疲れのことと思いますが、もうしばらくご辛抱をお願いいたします。

ことは2月に記憶にないほどの大雪が降り、また5月下旬から6月上旬にかけての猛暑、この入梅とともに集中豪雨と、天候の異変が続いております。今後は夏にエルニーニョ現象で冷夏になるとの予測もされております。あわせて白根火山の不穏な動き、昨日7時前後の続けざまの地震と異変が当町の住民と産業に悪い影響を及ぼさないように願うばかりでございます。

翻って世界情勢は政治経済の動きで混迷を深めております。拡大した国力を背景に、領土及び経済利権を求めて近隣諸国ともめごとを起こす国もあれば、火事場泥棒的に領土の拡大を狙う国、そして、宗教、主義主張、神事を含む、あらゆる理由でみずからの考えを暴力をもって実現、解決を図ろうとする人々もおります。

このような状況の中で、我が国だけが時間をとめたように、昔はよかった、昔に戻りたいと思ってもそれはできない状況になってきております。第2次大戦後の枠組みの中で、繁栄を謳歌してきた我が国は、世界情勢の変化とともに、置かれている立ち位置も変わり、新たな方向性を模索しなければならなくなっております。

それから逃げるためには、過去にあったように、鎖国ができればそれにこしたことはありません。しかし、現在の人口を養うには貿易が必要であり、もちろんできない相談です。この現状を打破し、そして解決の糸口を見つけるべく、国のあり方の再検討の一環としての憲法論議でありTPP交渉でもあります。

我が国の外交経済の枠組みの再構築の模索や国内での議論、諸外国との交渉となっております。あわせて国の財政が従来のばらまきの負担に合わせ、現在、そして将来の社会保障費の増

大の負担にも耐え切れなくなっている現状を踏まえ、内憂外患の状態、歴史的な大転換の必要性にも迫られております。

我が国は歴史的に見ても、みずから変えることがへたな民族です。しかし、外圧に対しては弱いところがありますので、従来ですと不本意ながらこれを利用して変える方法でした。しかしながら、今こそ自分の未来を、自分みずからがつくる国に変わらねばなりません。その結果として、必ずや国民の順応性の高さを発揮して、また新たな繁栄を築くことを信じてやみません。

それでは、さきに提出しました一般質問通告書を朗読させていただきます。

1、観光産業振興について。

- (1) 平成25年度の観光産業の状況はどうか。
- (2) 平成26年度の見込みはどのように見ているか。
- (3) 北陸新幹線飯山駅開業に向けての取り組み状況は。
- (4) NHK大河ドラマの平成28年度放送予定に対する今後の取り組みは。

2、TPP交渉について。

- (1) 把握している範囲の状況はどうか。
- (2) 当町の産業への影響はあるか。
- (3) 今後町としての対応はどうか。

3、今後の人口減少対策について。

- (1) 現状のままでは、10年後の町の人口予測は。
- (2) 現在行っている人口減少歯どめ策の状況と効果は。
- (3) 新しい産業を興すために検討していることは。
- (4) 総合計画・基本計画の変更の考えは。
- (5) 日本創生会議人口減少問題検討分科会の推計をどう考えるか。

以上です。再質問は質問席にて行います。

議長（児玉信治君） 答弁を求めます。

竹節町長、登壇。

（町長 竹節義孝君登壇）

町長（竹節義孝君） 田中篤議員のご質問にお答えいたします。

まず1点目の観光産業振興について、4点のご質問をいただいておりますが、平成25年度の観光客の入り込み数は、対前年比で約15万人弱の増加となっております。平成26年は2月の大雪による影響やゴールデンウィークの日の並びの影響など、ことしに入ってから大変厳しい状況であります。今後は長野県や業界団体、広域観光組織との新たなイベントの開催や広域観光の推進、インバウンド事業の拡充、おもてなし事業の充実等、取り組みを実施し、誘客に努めてまいりたいと考えてございます。

なお、4点、観光商工課長からご答弁申し上げます。

次に、2つ目のTPP交渉につきましては、例外なき関税撤廃で日本の農業の重要5品目が守れない見込みとなった際には速やかに交渉から撤退するよう農協とも連携して国へ要請を行うなど、地域の農業を衰退させることのないよう取り組んでまいりましたが、具体的な交渉の進展状況につきましては、新聞報道等による情報しかなく、国から詳細な情報提供もないので、現在細部については把握できていない状況でございます。

こうした中、新聞報道によれば、重要5品目である豚、牛肉の関税引き下げで大筋合意がなされているとの情報もありますが、消費者にとっては、格安なものが手に入るメリットもあるでしょうけれども、国内農業に与える影響について危惧しているところでございます。

当町の産業への影響につきましては、畜産農家に対する影響が懸念されるほか、当町の主力農産物であります果実の果汁に係る関税の撤廃は、果実の加工向け規格品の価格に大きな影響が出ることも懸念されています。

いずれにしても、現段階では依然として先行き不透明な状況であります。TPP交渉のいかんを問わず、農産物のブランド化を一層推進し、産地間競争の強化を図っていくことが重要であると考えております。町としては、これからもJAや県、町村会と連携し対応してまいりたいと思っております。

次に、3点目の今後の人口減少対策について、何人かの議員から同様の質問をいただき、ご答弁申し上げているところでございますが、5点のご質問につきましては、総務課長から答弁申し上げます。

以上です。

議長（児玉信治君） 観光商工課長。

観光商工課長（藤澤光男君） 1番の観光産業振興についての（1）平成25年度の観光産業の状況はどうか、（2）平成26年度の予想はどのように見ているかのご質問ですが、関連がありますので一括してお答えいたします。

25年度の個々の産業のデータがありませんので、観光客の入り込み数を申し上げますと、平成25年は約469万人で、対前年比約15万人の増加となっております。

しかし、ことし2月の大雪による交通機関の乱れや道路の遮断、4月の消費税の引き上げ、さらにゴールデンウィークの日の並びの影響による減少、そしてまたここに来まして草津白根山噴火レベル引き上げによる通行どめによる影響等、26年度の現状については厳しいものがあります。ただ、国の経済報告でありますとか、道の駅や楓の湯の状況を見ますと、決して悪い状況だけではないと考えております。

新たな観光客を誘致するため、志賀高原ユネスコエコパークの活用事業や志賀高原ロングライドなどの開催、新幹線飯山駅の開業、善光寺御開帳を中心とした広域観光の推進、外国人観光客誘客のためのインバウンド組織の立ち上げによる全町的な事業展開、リピーターの確保を目的としたおもてなし事業の充実、滞在日数の増加を目的とした着地型旅行商品の開発等、新たな取り組みを実施し、平成25年以上の誘客に努めたいと考えております。

(3) 北陸新幹線飯山駅開業に向けての取り組み状況はとのご質問ですが、小根澤議員にお答えしたとおりですので、お願いしたいと思います。

続いて、(4) NHK大河ドラマの平成28年度放送予定に対する取り組み方はとのご質問ですが、平成28年のNHK大河ドラマは、平成28年1月から全50回にわたり放送予定の「真田丸」に決定をされております。これは、上田市民の有志らが、NHK大河ドラマ「日本一の兵真田幸村公放映の実現を願う会」を結成し、NHKに働きかけをした結果と言われております。

当然のことながら、上田市を拠点とした歴史の舞台となった地域に多くの観光客の皆さんが訪れることになると思われます。

当町にも真田家ゆかりの宿がありますので、関係者と相談しながら、その活用についてまた検討したいと考えております。

以上であります。

議長（児玉信治君） 総務課長。

総務課長（内田茂実君） それでは、3番目の今後の人口減少対策について、(1)でございますけれども、現状のままでいけば10年後の町の人口予測はとのご質問でございますが、第5次町総合基本計画構想の将来フレームを1万3,000人と設定をしておりますが、昨年の9月議会で田中議員のほうからご質問をいただきました国立社会保障人口問題研究所の推計によりますと、平成32年の人口をそこから推計しますと1万2,000人というふうな形で推計をしております。

さらに、国立社会保障人口問題研究所による平成37年の町の人口、今から約10年後でございますけれども、1万559人と推計しております。これは国勢調査の数値をもとにございますので、今、将来フレームについては、住民基本台帳の人口を推計しております。それに合わせますと、平成37年の人口を1万1,000人といった数字が予測されるのではないかと考えております。

次に、(2) 現在行っている人口減少歯どめ策の状況と効果はとのご質問でございますが、人口減少対策に対応している産業につきましては、定住促進住宅改修工事等補助事業、それから空き家情報提供事業、若者定住促進家賃補助、それから奨学資金貸付事業、あるいは頑張る農業就農奨励金事業、福祉医療費の支給などがあります。

さらに、本年度から空き家活用改修等補助事業、移住促進家賃補助事業などをスタートさせております。それぞれの事業は、住みたくなる、そして暮らしたくなるまちづくりに一定の効果が上げると判断しておりますが、なかなか人口減に歯どめをかけられない状況であります。各事業の検証はもちろんでございますけれども、今後もさらにその対策を検討してまいりたいと考えております。

次に、(3) 新しい産業を興すために検討していることはとのご質問でございますが、農林課で行っている6次産業化の流れ、それから温泉を利用した福祉事業の誘致、またユネスコエコパークに係る商標戦略もその一つと考えております。

なお、須賀川地区で現在取り組まれている県事業を使つての地域おこし策や人口増対策活動

が町全体の事業展開モデルになり、さらに、新産業の振興に発展してほしいというふうに期待しているところでございます。

次に、（４）総合計画・基本計画の変更の考えはとのご質問でございますが、平成28年度からの後期基本計画策定に向け、本年度から前期基本計画の反省や、その成果の検証に入る予定としております。総合的に判断してまいりたいと考えております。

次に、（５）日本創生会議の人口減少問題検討分科会の推計をどう考えるかとのご質問でございますが、日本創生会議が５月８日に発表した2040年における二十歳から39歳までの女性人口動向では、当町の減少率71.3%ということでありました。当町が消滅可能自治体の基準に該当されております。有効な施策を打ち続けることが消滅回避の手段とこのことでもありますので、既存の事業を適正的な実施、それから継続、計画性を持った効果的な施策を今後も展開していかなければならないというふうに考えております。

以上でございます。

議長（児玉信治君） ４番 田中篤君。

４番（田中 篤君） 再質問させていただきます。

初めに、観光産業振興についてです。

当町における観光産業の比重は極めて大きく、当町の盛衰を左右する重要な産業です。去年少し持ち直したと言われておりますが、過去の影響に比べれば比べものになりません。この観光産業を今後どのように育成するかが私どもに課せられた重要な使命です。

日本人の人口構成が変わり、従来お越しいただいていたお客様が減少しつつある現在、新たなお客様の獲得をしなければ長期低落傾向を変えられません。

来年３月の北陸新幹線金沢開業を見据えた信越９市町村の取り組みなどもその一つと思われませんが、新たな観光資源の発見、お客様のニーズの把握、外国人お客様の受け入れ、PR方法の確立等、課題は山積みになっていると思います。

初めに、信越９市町村、信越自然郷、千年風土豊穰の地の取り組みについてどのように行っておりますでしょうか。

議長（児玉信治君） 観光商工課長。

観光商工課長（藤澤光男君） 小根澤議員にもお答えをいたしましたけれども、４月26日には大勢の旅行代理店の皆さんをお招きして発表会等を開催をいたしましたり、今後は西議員からも話がありました二次交通の取り組み、それから新幹線の飯山駅開業に向けて新たなプラットフォームの構築というようなことで取り組みを行っております。

以上です。

議長（児玉信治君） ４番 田中篤君。

４番（田中 篤君） これは、従来の形の観光とは若干違ってくるかと思うんですが、どのようなお客様を想定なさっているのでしょうか。

議長（児玉信治君） 観光商工課長。

観光商工課長（藤澤光男君） 新たに飯山駅が開業するというので、飯山駅からこの9市町村の地を訪れるお客様を対象として活動を行っております。

議長（児玉信治君） 4番 田中篤君。

4番（田中 篤君） やはり、広域観光という形でメインで考えられていると思うんですが、他市町村との協力体制、当町における利点、損得というのはどのような形で考えられていますでしょうか。

議長（児玉信治君） 観光商工課長。

観光商工課長（藤澤光男君） 山ノ内町にとりましては、究極的には宿泊をしていただきたいということが一番の目的でありますから、広域のそれぞれの観光地をめぐっていただいて、最後は山ノ内にお泊りいただくというようなことを一番主眼としておりますので、そういった面では、今のお客様は結構広域的に動きますので、そういったところを回っていただいて、山ノ内にお泊りいただくという点は利点であるというところであります。

ただ、同じように野沢温泉ですとか妙高市ですとか、そういったところも同じ9市町村の枠組みの中に入っておりますので、そういったところとのそういう宿泊されるお客様の競合というようなことがあるかと思われま。

以上です。

議長（児玉信治君） 4番 田中篤君。

4番（田中 篤君） ことしの2月から3月、誰かの質問にもありましたけれども、信越自然郷のリーダーシップのため特別講座というのがありました。それについてどのような見解でございましょうか。

議長（児玉信治君） 観光商工課長。

観光商工課長（藤澤光男君） 申しわけありません。私、詳しい中身までちょっと把握してなくて申しわけないんですけれども、小根澤議員に質問いただいた商品の素材集、それから滞在プラン、そういったものをそこで参加した皆さんで作成をされたというふうに聞いておりますけれども、それ自体は講座ということでもありますので、そこで何か商品にするとか、そういったことではないというふうに思いますので、そういった捉えをしております。

議長（児玉信治君） 4番 田中篤君。

4番（田中 篤君） その場では一応商品開発もたしか講座の内容の中に入っていたかと思えます。これは人材育成ということなんですが、今後観光産業を担う人材、町としてはどのような形でそういう人材育成を考えていらっしゃるでしょうか、それをお伺いします。

議長（児玉信治君） 観光商工課長。

観光商工課長（藤澤光男君） 今のご質問に関しましては、一番はこちらにお見えいただいて、いかに満足して過ごしていただけるかというようなことだと思いますので、おもてなし宣言というようなこともしておりますので、観光連盟等、業界の皆さんと相談しながら、そういった研修等をまた開催をしていきたいというふうに思います。

以上です。

議長（児玉信治君） 4番 田中篤君。

4番（田中 篤君） 人材といいますと、やはり旅館にしても経営が第一でございます。あと商品開発、新たなおもてなしもそうですが、サービス商品をどのように開発するか。

それと、あとはこれから長期で来ていただく方、いろいろとガイドの必要性も結構あるかと思えます。それについても、いろいろな意味で検討していただいて、そういう人材育成をどのような形でやるか、今ここではお答えを求めませんので、今後の課題としていろいろ考えていただければと思います。

あと、今の現状をちょっと知りたいものですから、ここで山ノ内町のピーク時の観光客の入り込みはいかほどであったでしょうか。

議長（児玉信治君） 観光商工課長。

観光商工課長（藤澤光男君） すみません、手元に資料がございませんで、今わかるところで申し上げますと、個々の観光地の数はわかるんですけども、ちょっと集計をしておりませんので、合計の数がわからなくて申しわけないので、後ほどまたお知らせしたいと思います。

議長（児玉信治君） 4番 田中篤君。

4番（田中 篤君） 個々でも結構ですから、ちょっと教えてください。

議長（児玉信治君） 観光商工課長。

観光商工課長（藤澤光男君） この10年で申し上げますと、湯田中渋温泉郷というくくりで申し上げますと、平成16年が約147万人であります。それから、志賀高原がやはり平成16年になりますけれども285万人、それから北志賀高原が111万人、やはり同じ平成16年です。そこがこの10年でいえば一番多い数になります。

議長（児玉信治君） 4番 田中篤君。

4番（田中 篤君） 今の数字はピークではないかと思えます。もうそのときには既に凋落傾向に入っていたころの数字だと思います。その数字でも、やはり五百二、三十万ですかあったと思います。今469万人ということで、そこからも70万人程度下がってきている、そのような現状の中で、今後、少しずつここでふえてきているという、アベノミクスの効果かもしれませんので、少しずつふえていくのはいい傾向なんですけど、劇的にふえるということはもうなかなか見込めないような感じをしております。

今後、新しいお客様がどのような方がいらっしゃるのか、そして、その方をどのようにして魅力をつくるのか、マーケティング的なことはやっておるのでしょうか。

議長（児玉信治君） 観光商工課長。

観光商工課長（藤澤光男君） 現状では、アンケート調査とかを実施しているようですが、ちょっと中身まで私、把握しておりませんが、そういったことを行っていると思います。

議長（児玉信治君） 4番 田中篤君。

4番（田中 篤君） やはり、これからお客様がどんどん変わっていく。従来の団塊の世代の方

もどんどんご高齢になっていきますし、若年層も変わって少なくなってきました。また、外国のお客様がどんどんふえてきているという日本の国内の状況もありますので、その方々に対応できるような観光地づくりを考えていただければと思います。

あとは観光宣伝についてちょっとお伺いしますが、町と観光連盟、各地の観光協会の役割分担みたいなのがあるのでしょうか。

議長（児玉信治君） 観光商工課長。

観光商工課長（藤澤光男君） 渡辺議員にお答えをいたしましたけれども、町としましては、全体にかかわる部分での事業を行っておりまして、各地の観光団体につきましては、それぞれ各地の利益になるような形でやっただけというところであります。

議長（児玉信治君） 4番 田中篤君。

4番（田中 篤君） そういう形になりますと、町と観光連盟の部分が重複する部分も出てくるんじゃないかと思われるところがありますので、そこら辺はある程度明確にして、各地の観光協会が一生懸命取り組んでいらっしゃる現状もありますので、ある意味で、そちらのほうに手厚く、ひょっとしたら観光連盟と町については、あえて合体した中でいろいろ考えていくという方法はないのでしょうか。

議長（児玉信治君） 観光商工課長。

観光商工課長（藤澤光男君） 昨日来お答えしていますとおり、観光連盟が役場のほうに事務局が移転してまいりますので、その中で連携を密にして、さまざまな事業、宣伝等に取り組んでいきたいというふうに考えております。

議長（児玉信治君） 4番 田中篤君。

4番（田中 篤君） 町のほうへ来るようですので、何とぞうまくやっていただけて、町の中に2つの観光団体があるような、そんなような形にはならないようにしていただければと思います。

あとは大河ドラマの関係なんですけど、やはり上田、松代、またこの地は松代藩の飛び地としていろいろと佐久間象山も含めて、いろいろな逸話、史跡も残っているようですので、そこら辺をうまくその地域と連携しながらPR、広報活動などをやってはいかかと思うんですが、いかがでしょうか。

議長（児玉信治君） 観光商工課長。

観光商工課長（藤澤光男君） 先ほどお答えしたとおりなんですけれども、ゆかりの宿等があるということですので、ちょっと私も知らなかったんですけれども、そういったことを活用していければいいのかなというふうに思っております。

議長（児玉信治君） 4番 田中篤君。

4番（田中 篤君） では、観光については以上にさせていただいて、次にTPP交渉について移らせていただきます。

例外5品目という形で今非常に交渉の最中がございます。当町についても、畜産とか果汁と

か、町長がおっしゃったように一部影響が出るものもあるということですが、私はこう思うんですが、アメリカ合衆国との2国間交渉も含めてTPP交渉がなされていますが、この環太平洋戦略的経済連携協定は、環太平洋地域の国々により経済の自由化を目的とした多角的な経済連携協定EPAです。今、日本では主に農業の分野において問題が議論になっていますが、本質は全ての物品及びサービスに対して、自由貿易により当該地域の発展に寄与するための貿易ルールの再構築であります。各国は自国産業保護の平等のもとに、既得権益で各国民の利益に反し、不当に守られてきた産業等の改革を促すものであります。

この新しい国際間のルールづくりは、従来の日本が最も苦手な分野であり、スポーツの世界に見られるように、知らないところで勝手にルールを変えられ、何度も日本の選手が苦汁を飲まされた経験を思い起こしていただきたいと思います。

今、これに積極的に参加して、国際間のルールづくりに日本が主導的な役割を果たすことがこの国の未来をつくる重要な要素だと思っております。これこそが真の国家戦略の最たるものでございます。

今、これに反対している人たちは、大多数の国民に犠牲を強いて、過去の既得権益に守られてきた人か、あるいは日本にはこのような交渉ができこないと最初から諦め、降参している人だと思います。これからの日本の未来は外圧により不本意ながら他人に与えられたものに従う今までの状況から、みずから未来をつくる国に変わらねばなりません。私は、これこそが未来の日本をつくる試金石だと考えています。

しかしながら、このルールづくりは、厳しい構想の連続で、相手のタフなネゴシエーターとの戦いです。この戦いに勝てば、戦略的に優位に立て、新たな発展の礎となります。国民の幸せにもつながります。戦わなければ最初から負けで、過去の苦い経験のとおり、相手の言いなりになり、当該分野の産業は壊滅状況になり、国民生活も含めて大きな犠牲を覚悟しなければなりません。

今回のTPP交渉は、当町の影響は他地域に比べれば、まだ少ないようですので、単純に過去にしがみつくように反対するばかりでなく、新たな繁栄を勝ち取るために、私どもが積極的に応援して交渉に勝てるような支援をしようではありませんか。

確かにほかの市町村の中には、従来のやり方が通用しなくなり、大きな方向転換を迫られるかもしれないところもあるかもしれません。

町長にお聞きしますが、その方々へ遠慮して、国の行く末を誤ることがないように行動するつもりはございませんか。

議長（児玉信治君） 竹節町長、登壇。

町長（竹節義孝君） 先ほども申し上げましたように、消費者にとっては格安なものが手に入るというメリットもございますけれども、今はやっぱり生産者をきちっと守っていかなくちゃならないという行政としての使命もございますので、そのちょうど板挟みになるというふうに思われます。

いずれにせよ長野県、あるいは町村会、農協さんと連携を密にしながら、今の状況の推移を見守っているという状況でございまして、町が主導的に表へ立ってどうのこうのというところまでは、正直いっておりませんけれども、その辺は非常に後ろ向きで大変申しわけございませんけれども、これからも連携し、対応してまいりたいというふうに思っております。

いずれにせよ最終的にはブランド農業推進、おいしいものがきちっと確保できることは価格だけでなくでして、やっぱり消費者の目も舌も肥えておりますので、そういった中で勝ち抜くような、そういった施策もきちっと講じて行かなきゃいけないのが行政の使命かなと思っております。

以上です。

議長（児玉信治君） 4番 田中篤君。

4番（田中 篤君） その意味では、我が町にはブランドになりそうな、もう既にブランドになっているものもあります。ブランドになりそうなものもたくさんございます。観光も一つのブランドでしょうが、私は農業の中に非常にそういうダイヤモンドの原石みたいなきらりと光る物がたくさんあるんじゃないかと思えます。

その意味で、観光もそうですが、農業についても、今後手厚くそのブランドを育てていくような形を町として積極的に推し進めていっていただくことが、この町の次の人口減少対策にもつながる重要なことだと思いますので、よろしくをお願いします。

その意味で、ですからTPP交渉をただ恐れるだけじゃなくて、積極的にルールづくりに参加する、このような姿勢が、今、日本に求められ、またそれに参加するような強い心、あるいは強い人間の地域がまた生き残れる、この日本の中でも生き残れる、そういうような形に来ているかと思えますので、そこら辺については十分にご留意をいただきたいと思えます。

次に、人口減少対策についてお尋ねします。

この問題は、ほかの議員さんが入れかわり立ちかわり質問しておりますので、一部重複についてはご容赦をお願いいたします。

金曜日ですか、庁内に人口減少対策のプロジェクトを立ち上げたというお話を聞いておりますが、どのような形でどのような活動をなさっていますでしょうか。

議長（児玉信治君） 総務課長。

総務課長（内田茂実君） お答えいたします。

プロジェクトチームにつきましては、昨年10月1日に立ち上げたわけでございます。副町長をトップといたしまして、各課、係長9名、それから企画財政係に事務局を置いたものでございます。

内容につきましては、人口減少対策に対応した事業の検証という形の中で、今までやっている、総務課でやっている部門、あるいは農林課でやっている部門、あるいは健康福祉課でやっている部門等々について、26年度の予算のところもございましたので、それに対して26年度、その検証に対してどのような形で26年度予算を編成していくかということもあわせて、まだ完

全なものではございませんけれども、後期の5カ年の28年度からの5カ年も見据えた中でやっているわけでございます。

その中で、景観形成の関係、それから環境学習、ユネスコエコパークという話も出ておりましたので、ユネスコエコパークの活動推進という部分の関係、それから空き家改修の関係、Iターン、Uターン、Jターン等々の関係の中での改修補助をもうちょっときめ細かくやったほうがいいじゃないかというふうな関係等の中で、そういうふうな形の中で、10月にはいろいろな各課のほうから意見をいただいております。

以上でございます。

議長（児玉信治君） 4番 田中篤君。

4番（田中 篤君） 回数は何回ぐらいなさいましたか。また、ことしやる予定はいかがになっていますでしょうか。

議長（児玉信治君） 総務課長。

総務課長（内田茂実君） お答えいたします。

今のところ、7月ごろにそういった会議をやりますよという形の中で、7月ごろそういう話を出しまして、各課のほうから、いろいろ自分たちのところを検証してほしいという形で、今、一応の各課から上がってきたのが10月という形でございます。

その後、実施計画等に入っていくところがございますので、実際そのプロジェクトという形の中で会議をやったのは1回という形でございます。それから、当然ですが、今後26年度総合計画の前期の検証等もやっていかななくてはいけないですし、また住民の皆さんに対するアンケートも同じような形で重点アクションプランを中心としたいろいろなご意見をいただいきたいかなというふうに考えております。

以上でございます。

議長（児玉信治君） 4番 田中篤君。

4番（田中 篤君） そうしますと、その中の会議が、今後の総合計画とか基本計画の変更とか、内容についていろいろと結果が反映されてくるということによろしいでしょうか。

議長（児玉信治君） 総務課長。

総務課長（内田茂実君） お答えいたします。

庁内会議でございますので、そういった庁内会議の基本的な各課の意見に基づいて、それからあとは28年度からの後期計画に向けた審議会との関係も、ここから遠い時期ではございませんけれども、審議会のほうにも立ち上げて、その中で、町の検証結果、それから28年度の後期の計画に基づいた内容等を検証いたして町長のほうに最終的に答申をして、議会のほうにもその内容をお諮りするというふうな段取りになろうかと思っております。

以上でございます。

議長（児玉信治君） 4番 田中篤君。

4番（田中 篤君） 何とぞ事業の検証というのは非常に重要でございますので、また人口減少

という喫緊の重要な問題が目の前にありますので、しっかり内容検証していただいて、また情報を開示していただいて、町民の皆さんの知恵を集め、またご理解をいただいて、新しい施策をどんどん打っていただければと思います。

私は、昨年9月議会で国立社会保障人口問題研究所の将来人口推計についてお伺いいたしました。そのときの感想なんです、そのときのご答弁では、危機感を感じているとはおっしゃっていましたが、従来の施策を的確に効率的に実施していただくという範囲でとどまって、今後どのようにやるかということについては、何もおっしゃっておりませんでした。今回もいろいろな意見の中で、そういうお話が何回か出たんですが、やっと今、そのプロジェクト会議でそれなりのことを考えて動き出しているなということをお知らせいただきました。ある意味では本当によかったかなと思っております。

ただ、やはりこれから実際に何をすることが意味があります。今回の日本創生会議人口減少問題検討分科会の推計は、国立社会保障人口問題研究所の将来人口推計をもとにして、なおかつ詳細に分析した結果です。それが市町村が生き残れるか消滅するかという分析を発表したんですが、消滅の定義は必ずしもゼロ、なくなるという意味ではないとは思いますが、衰退に向かっていくことは事実でございます。その中でも、当町は消滅の危険が極めて高いと推計されています。

前回にも言いましたけれども、これは経営学の巨人、ピーター・F・ドラッカーの言っている、既に起こった未来です。過去から現在までの現象、事象の帰結、結末が未来にあらわれる。これは統計学的にも未来予想ができる唯一の手法で、科学的な推計です。未来はわからないとたかをくくっていると本当に消滅してしまいます。この重大な危機に際して従来の延長線上の施策だけでは、衰退に向かって真っすぐに直進しているような形になってきます。

言い方は悪いですが、ある意味で住民獲得の地域間、自治体間競争に突入した可能性がございます。横並びでは負けます。ほかの地域から住民を当町に引っ張ってこなければなりません。そして、消滅を免れるためには誰でもいいわけではありません。子育て世代をふやさなければならぬのです。

既に当町を離れた人々に戻っていただくには、また今後、その世代になる人をどうしたら当町にいていただけるのか。そして、新たに都会からか、近隣の市町村からか、来ていただくためにはどうしたらいいのか、おのおの違った方法があると思います。原始の時代みたいに人をさらってくるというわけにはいかないんです。当町の魅力を発信して、いてもらい来てもらうほかありません。子育て世代、これが一番重要ですが、当町に住みたいと思わせなければなりません。

日本創生会議の問題提起が出た段階で、危機感を持った自治体は、日本全国たくさんあると思います。それらの自治体は、しゃにむに消滅を避けるべく、いろいろと独自の施策を打ってくるでしょう。この自治体間競争に勝つためには、当町は当町の強みで勝負する必要があります。関心事項はもちろん子育てです。子育てしやすい環境を当町としてつくる、それが肝心で

す。分けても保育、教育は最大の関心事です。収入を多く望むのもお金である程度そういう問題が解決できるからです。この地域ではなかなか都会と比べて同じような収入を得ることは、現実問題として不可能です。お金がなくても、子育てがしやすい、そういう環境をつくるのが、ここに住む、子育て世代が住みたいという大きな動機づけになると思いますが、これについて、子育てということになりますと、健康福祉課長、どのような考え方でこれについて取り組むおつもりでしょうか。

議長（児玉信治君） 健康福祉課長。

健康福祉課長（成澤 満君） お答えいたします。

各議員さんにお答えいたしましたとおり、各種保育料の軽減だとか、福祉医療の18歳までの無料化、それから保育日数の拡大、それから他課になりますけれども、家賃補助、それから奨学金の貸しつけ、もしくは長く町内に住んでいただければ、奨学金の免除といったようなさまざまな対策で、今、議員さんのおっしゃられたお金がなくても子育てができる環境整備というものを町は進めていると思います。また、いろいろなニーズを聞きながら、プロジェクトの中でそういった話も出てくるものと思っておりますので、それを見据えていきたいと思っております。

以上でございます。

議長（児玉信治君） 4番 田中篤君。

4番（田中 篤君） 今やっていることだけで、ほかとの差別化が果たして大きくついているでしょうか。今の現状だけで、山ノ内に住みたいと思われていると思いますか。私は思っておりません。もっとドラスティックに、先ほど保育園の第3子の問題もちょっと出ていましたが、もう18歳までは完全に自治体が面倒を見る。そのようなある意味での腹をくくったやり方をしなければ魅力は出てこないんじゃないか。それでも中にはいろいろな人がいらっしゃいますので、成果が出るか出ないかはっきりわからない部分はありますが、少なくとも仕事と、特に奥さん方、あるいは旦那さんもそうですけれども、育児と仕事が両立できる体制、100%できる体制をどのようにつくるか。また、費用についても、いかにしてかからないでできるか、そこら辺を思い切って考える。また、それを考えるとしたら、今どの程度のことができると思いますか、健康福祉課長、お伺いします。

議長（児玉信治君） 健康福祉課長。

健康福祉課長（成澤 満君） 今お話のありましたとおり、大変目玉になるような施策というのは確かに魅力ではございますけれども、それぞれ町全体でかかる費用がございます。その中でどういった支援ができるかを総体的に考えた中で、できるだけ目玉をとということになってくるんだと思いますので、健康福祉だけでなく、町全体の施策の中で方向づけしていくのかなと思っておりますので、そういった点でご理解いただければと思います。

議長（児玉信治君） 4番 田中篤君。

4番（田中 篤君） 私はこれからの公務員の方々は、今までよりもよりアイデア、また企画

力が必要になってくるかと思えます。もちろん先見性もです。従来と違った世の中をつくらなければこのような推計に向かっていってしまうんです。それを変えるためにはどうしたらいいのか、ドラスティックなイノベーション的なものを考える、そこら辺のことが必要であるかと思うんですが、今のご答弁では、なかなかそれがまだ出てこないようですので、今後それを期待させていただきます。

教育長にもお伺いします。

地域間競争に負けないために、当町の教育はどのようにしたらよろしいでしょうか。

議長（児玉信治君） 佐々木教育長。

教育長（佐々木正明君） 地域間競争というふうに申されましたけれども、私は、まず今、山ノ内に住んでいる子たちが自分の地域に誇りを持って学べる、そういう環境、そして地域を東西南北ではなくて、山ノ内をどうするのかということを含めて一緒に考えていく、そういう環境が大事だというふうに思います。

ただ、今それぞれの東西南北の地域で、自分たちの地域をどうするのか、そして、そういうところに子供たちが教育を学んでいくときにコミュニティースクールと申し上げましたけれども、そういう中でやっぱり自分の足元を固めながら広く考えていく、そういう自尊感情ですか持った子供を育てていくということ。そしてまた、将来、世界につながるグローバルな人材づくり、あるいは優しさ、優しい子供、あるいは自然環境を生かした教育、そういうものがやはり山ノ内町の教育として大事にしていかなければいけない問題ではないかというふうに思って今さまざま施策を、新しい施策もしているところでございます。

以上です。

議長（児玉信治君） 4番 田中篤君。

4番（田中 篤君） 世の中の流れからいいますと、大分ひよっとしたら今さら地域という話ではもうどうしようもない、グローバル化してきております。その中で、地域のことを話すような現象では、非常にちょっと心もとないと私は思います。

先日、ある講演で、船井研究所の方が言っていたらしいんですが、専門学校の副校長の講演の中で、学生は商品であるとおっしゃっていました。最初は学生はお客様だと思っていたんですが、社会から見ると、その専門学校から輩出する学生は、結局その専門学校の評価をされる。そのためには、いい商品を輩出しなければいけない、そういう教育を私どもはしているんだということをおっしゃっていました。それには当然しつけの問題から学力の問題まで全部含まれております。これについては、教育長、どのようにお考えでしょうか。

議長（児玉信治君） 佐々木教育長。

教育長（佐々木正明君） 専門学校の経営からすれば、商品だというそういう言い方もできるかもしれませんが、私は商品ではなくて、やはりその子供一つの個性を持って、未来を自分で切り開いていく、そういう人格を形成するのが私は公教育の立場としては、私は商品というふうに言い切ることはちょっとできないというふうに思っています。

議長（児玉信治君） 4番 田中篤君。

4番（田中 篤君） 一応建前的にはそうだと思います。ただ、結果としてその学校を卒業した人間は、社会では極めて評判がいいです。ちゃんとしつけもできる、即戦力である、社会性がある、能力もある。目指すところは同じだと思うんですが、やはり取り組み方のチャレンジ、山の登り方が違うことだけだと思うんですが、そういう経営の中でも、いいものはいい、間違いなく成果が上がっている部分があります。私は公共のいろいろな事業について、事業が第1で、成果が第2になっているんじゃないかと常々考えております。その成果を上げるべく皆さん方の施策を今後お願いいたしまして、私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

議長（児玉信治君） 4番 田中篤君の質問を終わります。

ここで昼食のため、午後1時まで休憩といたします。

（休 憩） （午前11時40分）

（再 開） （午後 1時00分）

議長（児玉信治君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

2 議案第33号 よませ保育園改修工事（建築）請負契約の締結について

議長（児玉信治君） 日程第2 議案第33号 よませ保育園改修工事（建築）請負契約の締結についてを上程し、議題とします。

質疑を行います。

1人で複数の質疑がある場合は、指名した際、質疑の数を明示し、1つずつ行ってください。

7番 高田佳久君。

7番（高田佳久君） 内容的にちょっと2点お聞きしたいんですけども、まず1点目は、今回の建築についてのこの契約の入札率をお聞かせください。

あわせて、建築以外の部分の機械設備、電気工事についての入札状況もあわせてお願いいたします。

議長（児玉信治君） 健康福祉課長。

健康福祉課長（成澤 満君） お答えいたします。

落札率になりますけれども、建築で86.29%、機械設備につきましては95.36%でございます。

電気設備につきましては、不落となりましたので、再度17日に入札を予定しております。

以上でございます。

議長（児玉信治君） 4番 田中篤君。

4番（田中 篤君） まず、町民の方々はまだよくわかっていないかと思っておりますので、今回のよませ保育園の改修工事の事業総額はいかほどなのか、2点お願いします。

それと、今回建築の一番札はそれで聞いたんですが、2番札、3番札はどのくらいの差があ

るのか、それも教えてください。

議長（児玉信治君） 健康福祉課長。

健康福祉課長（成澤 満君） よませ保育園の改修工事の総額でございますが、概算になりますが、9,200万円ほどになります。税込みでございます。

それから、2番札、3番札ということでございますが、2番札の方が、税抜きでございますけれども7,498万円、それから3番の方が7,700万円でございます。

議長（児玉信治君） 15番 渡辺正男君。

15番（渡辺正男君） 1点だけお願いいたします。

当初、屋根の上に太陽光発電というような話で説明を受けたと思うんですが、その辺が聞くところによると断念したということだというふうに聞いておりますが、この断念した理由についてお願いしたいと思います。

議長（児玉信治君） 健康福祉課長。

健康福祉課長（成澤 満君） 2月の保護者の方等との要望を聞いた中で、玄関の位置を変更してほしいということで、構造上変えるようになりました。その中で、太陽光をやると柱等から全部太くしたりしなければならぬということになりましたので、そうしますと、今いただいておりますの予算の中ではおさまらないので、太陽光につきましては断念させていただいた経過でございます。

議長（児玉信治君） 11番 湯本市蔵君。

11番（湯本市蔵君） 2点お願いします。

この議案は先ほど高田議員が質問した関係ですけれども、電気設備のほうが不落になったということで、今では17日に再度入札ということなんですけれども、7社全員指名競争になっておって不落ということなので、これはどういう形で決着がつくのか、要するに設計を見直してやるのか、それとも業者を入れかえるのか。入れかえるとした場合、ほとんど町内で関係しているのは全部入っちゃっているもので、そこら辺の方針をまずお聞きしたいと思います。

議長（児玉信治君） 健康福祉課長。

健康福祉課長（成澤 満君） 今、議員さんから言われたとおり、2つの方法がございます。

その中で、設計内容を変更いたしまして、もともと予算上の中で押さえていた部分がございますので、その中で入札差金等も出ましたので、もう少しやりたい部分があったので、設計の内容を変えまして、もう一度同じメンバーで入札という形でございます。

議長（児玉信治君） 11番 湯本市蔵君。

11番（湯本市蔵君） それでは、本体の建築のほうですけれども、昨年のほなみ保育園の入札のときもこの業者が予想と言ったらおかしいけれども、非常に1,000万円ぐらい低い額で落札をしているわけですが、今回もまた全く同じような1,000万円ぐらい低く落れているということなんで、去年は私どもは、これ計算間違いでもして工事は大丈夫かなと思ったんですが、実際にはでき上がっているということなんですけれども、また今回全く同じケースということなんで、

町のほうとしてはこの業者さんはどういう格好でこういう結果になっておるのか。また、工事は大丈夫なのかということを検討されてこの議案になっているとは思いますが、その辺の経過がわかったらお願いしたいと思います。

議長（児玉信治君） 健康福祉課長。

健康福祉課長（成澤 満君） この工事金額に対して入札できる業者というランクづけがございます。その中で、町内に本店もしくは営業所がある業者ということの中でやっていたわけなんです。特にほなみ保育園で問題があったわけでもない中で、この業者だけというのは理由がございませんので、基準に従いまして、該当する業者さんを選定したというものでございます。

以上でございます。

議長（児玉信治君） 12番 小淵茂昭君。

12番（小淵茂昭君） 今の渡辺議員の質問の中の健康福祉課長の答弁が、予算オーバーだから太陽光をつけないというお話ですが、地元説明会と答弁の内容が違って見解を統一をしていただきたいです。保護者、その他の皆さんに対する説明はそうではなかったように思いますが、まずその点1点。

もう1点あります。すみません。その点を先にお聞きします。

議長（児玉信治君） 健康福祉課長。

健康福祉課長（成澤 満君） すみません。地元で説明した内容というのは、私ちょっと承知していないのでお答えできないものですから。

議長（児玉信治君） 12番 小淵茂昭君。

12番（小淵茂昭君） 業務担当事務方責任者としては、それは引き継ぎが悪いということしか言いようがありませんよ。地元の人たちは変わらないんですから、行政側担当は同じ答弁をしていたらいいと困るんです。

私が聞いている範囲では、今の柱、その他をかえて改築になると建築基準法に抵触をすることで太陽光ができない。ほなみ保育園は、太陽光を設置した。よませもやるという当初の計画だったですから、保護者の皆さんも大分期待をされていた。説明では児童の教育を進めるためというふうに説明を受けたんですが、どうも答弁の内容が狂ってきていますから、本会議でありますから統一したお答えをいただいて、地域の皆さんにも理解してもらうのが筋だというふうに思いますので、いかがでしょうか。

議長（児玉信治君） 健康福祉課長。

健康福祉課長（成澤 満君） 説明の内容はすみません、引き継ぎがよくなくて申しわけないと思います。

説明が足りなかったので補足いたします。

今のおおりの、耐震が足りないということは、柱等を太くしなければならない。それには工事費が増大するというのでございますので、工事費という部分を抜きまして、耐震の関係からということで地元のほうには説明されたものだと思います。

それから、教育を進めるためというのは確かにそのとおりでございます。その点につきましては、またそれぞれの子育てに配慮した保育園というものを目指しておりますので、その点について考えていきたいと思っておりますので、またよろしく願いいたします。

議長（児玉信治君） 12番 小渕茂昭君。

12番（小渕茂昭君） 設計説明の中で屋根の補修というお話もあったんですが、まずこれだけ総額9,000万円からの事業費で、よませ保育園改修をかけて、今後何年間使用していくという計画でこの設計に至ったか、お聞きしたいと思います。

議長（児玉信治君） 健康福祉課長。

健康福祉課長（成澤 満君） 今回の改修につきましては、30年もたせるという予定で改修しております。

議長（児玉信治君） 質疑を終わります。

討論を行います。

（発言する者なし）

議長（児玉信治君） 討論なしと認め、討論を終わります。

採決をします。

議案第33号を原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

（「異議なし」と言う声あり）

議長（児玉信治君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第33号 よませ保育園改修工事（建築）請負契約の締結については、原案のとおり可決されました。

3 議案第34号 北信地域町村交通災害共済事務組合を組織する地方公共団体の数の増加及び北信地域町村交通災害共済事務組合同規約の全部変更について

議長（児玉信治君） 日程第3 議案第34号 北信地域町村交通災害共済事務組合を組織する地方公共団体の数の増加及び北信地域町村交通災害共済事務組合同規約の全部変更についてを上程し、議題とします。

質疑を行います。

14番 小林克彦君。

14番（小林克彦君） 1点お願いします。

市町村数が22市町村になって、きょう現在のといたしますか、新組合になった時点での加盟者数、加盟人数をお願いいたします。

議長（児玉信治君） 健康福祉課長。

健康福祉課長（成澤 満君） 細かい数字を持ちあわせておりません。申しわけございません。

議長（児玉信治君） 質疑を終わります。

討論を行います。

(発言する者なし)

議長(児玉信治君) 討論なしと認め、討論を終わります。

採決します。

議案第34号を原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

(「異議なし」と言う声あり)

議長(児玉信治君) 異議なしと認めます。

したがって、議案第34号 北信地域町村交通災害共済事務組合を組織する地方公共団体の数の増加及び北信地域町村交通災害共済事務組合同約の全部変更については、原案のとおり可決されました。

4 議案第35号 平成26年度山ノ内町一般会計補正予算(第1号)

議長(児玉信治君) 日程第4 議案第35号 平成26年度山ノ内町一般会計補正予算(第1号)

を上程し、議題とします。

質疑を行います。

3番 西宗亮君。

3番(西 宗亮君) 10ページをお願いします。

10ページの7款2項の15節反射鏡、いわゆるカーブミラーだと思うんですが、それと区画線の設置で50万円、20万円計上されておりますが、反射鏡については、特に当初予算にもございましたけれども、補正で上げたこの部分についてはどこを予定しての補正になりましょうか。お尋ねします。

議長(児玉信治君) 建設水道課長。

建設水道課長(渡辺千春君) 昨年より要望いただいている箇所がございました。当初で予算上で計上できなかった箇所がございましたので、今回補正をお願いしているところがございますが、具体的な箇所につきましては、私どものほうでも承知しておるんですが、そうはいつでもこれ以上の要望もありますので、現場をもう一度精査しながら、三、四カ所予定しておりますが、改めての決定していきたいと思っております。

議長(児玉信治君) 7番 高田佳久君。

7番(高田佳久君) 1点だけお聞きしたいと思っております。

11ページから12ページにかけての教育費のE S Dの推進事業なんですけれども、このE S D推進事業の総額とタブレットの台数など、具体的な事業内容をご説明をお願いいたします。

議長(児玉信治君) 教育次長。

教育次長(柴草 隆君) お答えいたします。

E S Dの推進事業の総額につきましては、1,004万8,000円でございます。事業内容の細かいものにつきましては、副町長のほうからお願いしたいと思います。

以上です。

議長（児玉信治君） 小林副町長。

副町長（小林 央君） ご説明いたします。

ちょっとわかりづらかったかと思います。ユネスコエコパークの中にあります山ノ内町、多分ほぼ全町が承認されるかと思いますが、この町全体がユネスコエコパーク、その中にありますユネスコスクール、今申請中ございまして、これもおいおい認定されるということございまして。

そういった中にあるユネスコスクールの生徒に対して、環境学習をきちんとしていきたい、こういった取り組みは日本の中では初めてございまして、山ノ内町といいますか、ユネスコエコパークにございまして、高山村も含めて、小・中学校全生徒に環境教育を施していきたい、そういった中で、現在、こういった通信技術が相当進んでいる中で、タブレットを活用した環境教育、これも非常に先進的だと思われまして。

こういったことをこの町中心に進めて、おいおいはこの町にいらっしゃる林間学校の学生さんですとか、一般の民間の方々、そういった方々にも志賀高原及び山ノ内町で環境教育をそのタブレットを用いながらしていただきたい。そういう意味では、一つの地域づくりにもつながっていくなということで提案した中身でございます。

議長（児玉信治君） 12番 小淵茂昭君。

12番（小淵茂昭君） 1点お聞きします。

9ページであります、農業振興費の中で、被災農業者向けの経営体育成支援事業、これは国・県の補助金、さらに一般財源、町単だと思んですが、まずこの493万8,000円の比率をお聞きしたいと思います。

あわせて2,180万円の支出先の戸数なり、箇所数をお聞きしたいと思います。

議長（児玉信治君） 農林課長。

農林課長（生玉一克君） まず、戸数でございますが、箇所数でお願いを申し上げます。重複している方もいらっしゃいますが15施設ということでございます。補助率でございますが、新設につきましては、前回と同じ90%、解体につきましては100%でございます。

（「台数について」と言う声あり）

議長（児玉信治君） 農林課長。

農林課長（生玉一克君） その各個々によって違います補助率に掛けました部分に対する一般財源でございます。

議長（児玉信治君） 7番 高田佳久君。

7番（高田佳久君） 先ほどESDのタブレットの台数もお聞きしたので、台数もよろしくお問い合わせいたします。

議長（児玉信治君） 小林副町長。

副町長（小林 央君） 当初、40台ぐらいを予定しております。

議長（児玉信治君） 14番 小林克彦君。

14番(小林克彦君) 歳入なんです、6ページの財産収入ですね、この出資金返還金300万円、これは公社の関係で解散で戻るのわかるんですけども、残余財産収入のほうの3,703万9,000円というのは、決算書のほうの公社のほうの貸借対照表のどういうことに当たるのか、その説明をお願いいたします。

議長(児玉信治君) 総務課長。

総務課長(内田茂実君) お答えします。

貸借対照表の現金預金から、また精算のところはまだ引くものがございまして。それを予想して、今の3,703万9,000円という数字を出しております。

以上でございます。

議長(児玉信治君) 15番 渡辺正男君。

15番(渡辺正男君) 4点ほどあるんですが、最初に10ページの観光振興費の需用費と委託料なんですけれども、これは委託料のほうはラジオ番組というふうな説明だったかなと思うんですが、どこへ委託して、どのぐらいの期間のラジオ番組になるのか。それから、その上の需用費も、特別誘客についてどんなふうに使われるのか、その辺説明をお願いします。

議長(児玉信治君) 観光商工課長。

観光商工課長(藤澤光男君) 需用費の150万円につきましては、夏から秋冬にかけてのイベント等の対策、それから町をPRしていただいております観光大使の皆さんの活動の経費ということで計上しております。

それから、委託料の観光宣伝特別対策事業ですけれども、SBCラジオに委託をいたしまして、8月から3月まで毎週1回放送予定であります。

以上です。

議長(児玉信治君) 15番 渡辺正男君。

15番(渡辺正男君) 同じページの土木費の道路新設改良費の漏水防止ですね、これはどこの箇所をどういうふうに直されるのか、お願いしたいと思います。

議長(児玉信治君) 建設水道課長。

建設水道課長(渡辺千春君) 25年度にも行いましたが、旭山発着線、スノーシェットの漏水防止でございます。

工法につきましては、専門的な工法になりますけれども、実際に上部がゲレンデなどになっておりますので、その雨水ですとか、解けた水がつなぎ目から入らないような形で、目地を詰めるような形になります。

以上です。

議長(児玉信治君) 15番 渡辺正男君。

15番(渡辺正男君) それでは、11、12ページの先ほど高田議員の質問のあったESDの推進事業なんです、最後の13番委託料について、ソフト開発というふうなことだったかなと思うんですが、どこへ委託をされるのか。それから、これだけの一財を使うわけなんで、また先ほ

どの副町長の説明ですと、初年度は40台というふうなことだったので、これからもきっと来年度なりに出てくるのかなと思うんですが、これは財源的に補助制度とか何かそういううまいものはないんですか。全額一財でやる、そういうことではないんですかね。

議長（児玉信治君） 小林副町長。

副町長（小林 央君） どこへ委託ということですが、現在、ドコモがユネスコキッズというシステムを持っておりまして、世界遺産を子供たちに教えるプログラムでございまして、この一部の活用をしていきたい。これも600万円のソフトが600万円で済んでいる一つの理由でございしますが、本来であればもう少しかかるわけでございます。それを活用することと、それから電通という会社がございますが、ここがユネスコといろいろな話をしながら、山ノ内バージョンに直していく、いわゆる志賀高原、ユネスコエコパークバージョンに直していくというソフトの費用が大体このぐらいかかるということでございます。

毎年毎年ソフトの中身は改良していくということがございますので、当初やはり一番お金がかかりますが、次年度以降もソフトの改善費といえますか、改良費はかかっていくと思われま

す。
また、タブレットにつきましては、通信費との絡みでございまして、台数は当初40台ぐらい考えておりますが、高山村とかほかの小・中学校、これも別にユネスコエコパークでないからそこで活用しないということではなくて、これは同時に全小・中学校で40台、とりあえず活用していきたい。それをもっと一般的に林間学校の生徒等に活用するときはこれは有料でやっていっても構わないというふうに思っていますので、そういうときは例えば100台、200台という数字になっていくものと思っております。

それから、補助制度につきましては、これは文部科学省のほうで、ことしも考えていたんですが、補助制度を来年度以降も考えていく意向が文部科学省にございますので、そういったところに企画書を出して採択してもらおうように今後は努力していきたいと思っております。

議長（児玉信治君） 9番 黒岩浩一君。

9番（黒岩浩一君） 1点だけお願いします。

9ページの商工費の空き店舗活用事業の補助金ですが、これは過去に行った事業を各店舗、その効果だとか現況だとか、採算なども含めて、そういうことについて行政としてはどのような評価をしていらっしゃるのかお聞かせください。

議長（児玉信治君） 観光商工課長。

観光商工課長（藤澤光男君） 過去に行った空き店舗の補助につきましては、検証した経過は今のところございませんけれども、今後補助を行った店舗につきましてどのような状況になっているかというのは、追跡の調査をする必要があるかと思えます。

以上です。

議長（児玉信治君） 9番 黒岩浩一君。

9番（黒岩浩一君） よくわからなかったんですが、過去に行った事業の一つ一つの検証は今で

きていないということですか。

議長（児玉信治君） 観光商工課長。

観光商工課長（藤澤光男君） 調査は行っておりませんが、それぞれ補助を行った店舗につきましては、現在も営業しておりますので、そういった意味で、調査を行っていないということでもあります。

議長（児玉信治君） 質疑を終わります。

討論を行います。

（発言する者なし）

議長（児玉信治君） 討論なしと認め、討論を終わります。

採決します。

議案第35号を原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

（「異議なし」と言う声あり）

議長（児玉信治君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第35号 平成26年度山ノ内町一般会計補正予算（第1号）は原案のとおり可決されました。

5 議案第36号 山ノ内町非常勤消防団員に係る退職報償金の支給に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議長（児玉信治君） 日程第5 議案第36号 山ノ内町非常勤消防団員に係る退職報償金の支給に関する条例の一部を改正する条例の制定についてを上程し、議題とします。

質疑を行います。

12番 小淵茂昭君。

12番（小淵茂昭君） まず、一律5万円アップは、議会からも要請が出ております。この根拠をまずお聞きしたいと思います。

議長（児玉信治君） 消防課長。

消防課長（阿部好徳君） 提案の説明にもありましたように、消防団員の処遇の改善が主だったものであります。

議長（児玉信治君） 12番 小淵茂昭君。

12番（小淵茂昭君） 私の趣旨は、5万円はということをお聞きしたんですが、当然改善でアップに対して私は賛成でありますからいいんですが、なぜ5万円かをお聞きしたということがあります。

次の質問ですが、まず支給額の表、後ろのページですが、ちょっと見方がわからないのでお聞きしますが、階級別の中で、団長、副団長は現在町消防団条例では2年に切りかわりました。分団長、副分団長は現状は1年のような気がするんですが、この表に部長も含めて対象になる提案でしょうか、お聞きします。

議長（児玉信治君） 消防課長。

消防課長（阿部好徳君） 最終的に退職した階級で報償は支払っておりますので、副分団長1年、分団長1年ということで、2年ということで、分団長の金額で払っております。

議長（児玉信治君） 5万円の根拠。

12番 小淵茂昭君。

12番（小淵茂昭君） もう1点、今質問したのは、部長、班長はどうですかって言うておいたんですが、それもあわせて答弁を願います。

議長（児玉信治君） 消防課長。

消防課長（阿部好徳君） 5万円の根拠については、退職報償組合のほうで5万円の値上げということで、町にその金額が支払われます。したがって、条例においても当然基金のほうから払われますので、条例も5万円の引き上げということで、なぜ5万円になったかという、ちょっとその辺はわかりません。

班長、部長につきましても、先ほど言ったとおり、一番最終の職名の階級でこの退職を払っております。

議長（児玉信治君） 12番 小淵茂昭君。

12番（小淵茂昭君） 各部では、一旦団員を退職してから部長にまた再選される場所もあります。こういう場合は、一旦団員を終わっていますよね。これは途中で切れた場合に、改めて部長職が選ばれるパターンがあるんです、町内に。これは対象になるかならないかをまずお聞きします。もう1点ありますから。

議長（児玉信治君） 消防課長。

消防課長（阿部好徳君） 今の質問ですけれども、一旦退団された者につきましては、もうその時点で退職金は一旦払われます。この表にありますように、団員につきましては5年以上ということに、この金額が書いてあるとおりのので、払われません。

議長（児玉信治君） 12番 小淵茂昭君。

12番（小淵茂昭君） 団員は5年務めないで無報酬、それで突然1年だけ部長に選ばれるパターンが今現実あるんです。だから、両方とも例えば4年勤務で退職して、それから部長を1年だけやった場合は、この表には対象にならないんですねということをお聞きしているんですが、それをちょっと明確にお答えいただきたいと思います。

議長（児玉信治君） 消防課長。

消防課長（阿部好徳君） 今までそういうケースをちょっと経験していないんですけれども、大体団員から部長、分団長というような形がほとんどなんで、今、小淵議員さんが言われたときにどのような退職金の支払いをしていくかにつきましては、また調べて報告をしたいと思えます。

議長（児玉信治君） 12番 小淵茂昭君。

12番（小淵茂昭君） 表を見ますと、30年以上というところまで出ていますが、これは表です

けれども、現実には即して、この下のほうの付録のほうがでかいような気がするんですが、町消防団としては、このエリアの判断が非常に難しいんですが、提案をされた理由、30年以上勤務というのは現実どのくらいあるか、それだけお聞きします。

議長（児玉信治君） 消防課長。

消防課長（阿部好徳君） この表につきましては、北信の6市町村で北信消防協会を組んでおります。それで、その統一の支給額ということで、以前からずっと使っております。それで、山ノ内町にはないんですけども、木島平とか栄村に行くと、このように何十年という失礼かもしれませんが、30年とか務めていただいている団員がおりますので、この表でやっていっております。

（「町の対象」と言う声あり）

消防課長（阿部好徳君） 町につきましては、大体20年の辺が退職の年度だと思っておりますけれども、北信消防協会に合わせてありますので、一応この表を最初に発足した当時から使っておりますので、町もこの表で使っております。

以上です。

議長（児玉信治君） 質疑を終わります。

お諮りします。

会議規則第39条の規定により、議案第36号を総務常任委員会に審査を付託したいと思っております。ご異議ありませんか。

（「異議なし」と言う声あり）

議長（児玉信治君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第36号を総務常任委員会に審査を付託することに決定しました。

審査の結果につきましては、会議規則第46条第1項の規定により、本会期中に報告できるようお願いします。

議長（児玉信治君） 以上をもって、本日付議されました案件の審議は全て終了しました。

これにて本日の会議を閉議し、散会いたします。

大変ご苦労さまでした。

（散 会）

（午後 1時36分）